

【2022年12月 月間予定表 —東野校—】

12月の予定	
1	木 ● 進路相談会期間 (受験者対象)
2	金
3	土 土曜特訓⑦ (中3対象 柳辻北校)
4	日
5	月
6	火
7	水 休校日
8	木
9	金
10	土 土曜特訓⑧ (中3対象 柳辻北校)
11	日
12	月
13	火
14	水 休校日
15	木
16	金
17	土 休校日
18	日
19	月
20	火
21	水 休校日
22	木 【冬期講習】開始
23	金
24	土
25	日 授業日
26	月 休校日
27	火
28	水
29	木
30	金 休校日
31	土 休校日

※諸事情により予定を一部変更する場合があります。

【10月度のMVP】

- 中3 O・M さん
- 中3 T・R さん
- 中3 O・E くん
- 中3 M・K くん
- 中3 N・W さん

第4回V模試成績ランキングで、
見事 **ランクイン!!**

12月行事について

●冬期講習……………
今年度最後の講習です。受験生は年明けの入試へ向けてラストスパートです。

【イノチはキセキ】

保護者の皆様、いつもお世話になっております。

「あなたに10分間だけ時間をあげます。世の中に残したい言葉を話してください。それをテレビのドラマのセリフとして使います」
もしもそんなことを言われたら、あなたならどんなことを話しますか？
これ、本当に実行した人がいるんです。
彼は、10分間、ドラマの中で、台本にない言葉を語り続けました。

国民の人気俳優が、自分の言葉で語った最後の1シーン。
石原裕次郎さんが、「太陽にほえろ！」に出演したときの話です。
彼は10分間、命の大切さを語り続けたそうです。
大動脈瘤になり、その後、がんになって亡くなった裕次郎さん。
その10分が、彼の最後のテレビ出演でした。

命について考えてみると、小児がん病棟の子どもたちを思い出します。
七夕の短冊に、「大人になりたい」って書いていました……。
命って、きのう死んだ人が夢見た「今日」という日を生きる……ということ。

ベートーベンの代表曲のひとつ「田園交響曲」。
この交響曲には、カッコウやコマドリなど、ウィーンの森に生息する小鳥のさえずりが音譜として出てきます。
20代後半から難聴に苦しみ、聴力を失い始めた自分に対して、せめて音譜の中で、その声を聞きたいというベートーベンの魂の欲求のような気がします。
おそらく、ウィーンの森を散策していた頃には、自分が聴力を失うなど想像もできなかったでしょう。

失って初めてその大切さに気づいた。だから音譜に落とし込んででも聴きたかった。あたり前と思っていたことは、実はあたり前ではなかったのです。聴力を失った後、ベートーベンは音楽仲間からもバカにされて不遇の時代を送ります。
音楽家が音が聞こえない。想像を絶する辛さだったと思います。
しかし、ベートーベンは部屋の中でひとり、口にくわえた指揮棒をピアノに押しつけ、頭蓋骨の震動を通じてピアノの音を感じ取っていたのです。

そんなベートーベンが最後の交響曲として作曲したのが「第九交響曲」。
これは、彼の後半の生き方そのものです。「苦しみを越えて歓喜に至れ」というテーマで作曲され、いまでも年末になると必ず演奏されます。
実は、この「第九交響曲」の初演(1824年5月7日)は、ベートーベン自らが指揮棒を振っています。その初演の演奏後のこと。

ベートーベンは恐怖で客席を向くことができなかったといえます。
「耳が聞こえないのをいいことに、誰も演奏してくれなかったのではないか……」
「自分の思ってる音楽ではなかったのではないか……」

音がほとんど聞こえないのだから、当然の不安です。恐い。
観客の顔が見られない。バカにされるのだろうか……。
いつまでも客席を向こうともしないベートーベンに、コンサートマスターがそっと寄り添って、振り向かせました。
すると……

そこにはスタンディングオベーションの観客のすがたがありました。
歓喜。それはいつだって苦しみの先にあります。

朝、目が覚める。外に出ると空が見られる。小鳥のさえずりが聞こえる……。
私たちが普段あたり前だと思っていること、それらはすべて奇跡なんです。
世の中であたり前なことはひとつしかありません。「生まれたら死ぬ」たったそれだけ。
それ以外は、すべて奇跡なんです。

今日無事に生きていられる、それはとても幸福なことなんです。
自分の大切な人が健在なのだとしたら、それもまた幸福なことです。

大好きな人が死なずに、今日生きていてくれる。それ以上の幸福ってありますか？

塾長 山田 大介